

# 通信鬼の絵詞

## 第五号

Oninoekotoba free paper is made by Tamairo creatorz, Kumohara Onisobaya restaurant. We are writing about stories of Oni, Japanese demon said to used to live in Fukuchiyamacity, Kyoto.

今回の特集は……  
ふくちやまと鬼  
鬼伝説紀行  
我が鬼伝説  
おにへんたい座談会



不寝の森(ねずのもり)

'Nezumori' stands for unsleeping woods in Miwa.

### 不寝の森(ねずのもり)

福知山市三和町から兵庫県篠山市へと抜ける府道97号線を行くと、その県境の程近くにうっそうと茂る深い森があります。森の名は「不寝の森」。

三和町の菟原中に伝わる酒呑童子伝説ゆかりの森です。源頼光一行は都を発ち、山伏姿に身を変えて、酒呑童子討伐のため千丈ヶ嶽へと向かいます。丹波路で一行は歩みをそろえ、現在の三和町へと踏み入ります。

そこで彼らはこの森で一晩を寝ずに過ごしたことから「不寝の森」と呼ばれているのです。残念ながら、一行がこの森で何故寝ずに過ごしたかは分かりません。

鬼の首を安泰に取るべく戦勝祈願をしていたのでしょうか。ともかく、暗く深いこの森は、夜となればさぞ身の震える思いのする事でしょう。長旅の道すがら、一晩を寝ずに過ごした英雄らの、力強さ、たくましさを感じます。

著・海熊童子

## ゆるっと！酒呑童子退治の事！

They were told to go for beating Oni, Japanese daemon. However, they are so afraid of Oni that is so strong and cruel.

### 第九話 作戦会議 その二



決定  
石清水 頼光・保昌  
住吉 綱・公時  
熊野 貞光・季武



マンガについて 原作 海熊童子/作画 飛矢文/図案協力 れんみえどり  
酒呑童子退治、鬼退治の伝説はさまざまにありますが、『前太平記』に描かれた世界を軸に、いろいろな伝説の要素を取り入れ、私たちの新しい鬼伝説を描き出します。

### 第八話 作戦会議 その一



## 鬼伝説紀行 第五回

『前太平記』を中心に、鬼伝説を追いかける。  
みなさまと旅をしてみました  
『前太平記』編、ひとまず完結です。  
著・海熊童子  
校正・山内一輝

### 「住吉の祠」と大江町

『前太平記』で、「千丈ヶ嶽」に向けて「福智」を發つた頼光一行は、道に迷って丹後国(現京都府北部)の小さな祠にたどり着きます。そこにやって来た法師に祠の祭神を問うと、「是は当国の一宮、籠宮権現として住吉の神と御同体にて在す」と答えます。

しかし、現在の福知山の中心部にあたるであろう「福智」から現在の大江町を通じて「千丈ヶ岳」に至る道中に、「住吉」の名前を冠する神社が筆者の確認した限りでは存在しません。

この「住吉の祠」は創作、あるいは廃された祠なのでしょう。筆者の考えは違いますが、この祠の祭神に注目すると「住吉の祠」の正体が見えてくるのです。

ここで法師の言った「籠宮権現」に注目します。当国、つまり丹後国の一宮は現宮津市の「籠神社」で、別名を「籠宮大明神」とも呼ばれています。法師はこの「籠宮権現」と同じく、小祠に「住吉の神」が祀られていると言います。

ところが、「住吉」と「籠神社」の祀っている神は異なります。本社である「住吉大社」には、「底筒男命・中筒男命・表筒男命」のいわゆる住吉三神が、「籠神社」には「豊受大神・天照大神・海神・天水女神」の四柱が祀られているのです。

しかし、「住吉の祠」と「籠神社」が同体という点に注目した時、大江町にはそれに相応する社が存在します。それが「皇大神社(以下内宮)・豊受大神社(以下外宮)」です。

「籠神社」と大江町の両社は「元伊勢」という共通した通称があります。もちろん「内宮」・「外宮」両社ともに「住吉三神」は祭神としてません。しかし、『大江ふるさと学』の「元伊勢外宮」の紹介に以下のようにあります。

「豊受大神社にも本殿を囲んで小宮が並んでいる。(中略)それらの小宮の中で、ひととき注目されるのが天田神社である。(中略)神社明細帳には、祭神、底筒男命・中筒男命・表筒男命とある」(※)。

「元伊勢外宮」の中にある小宮の一つである「天田神社」。それが「住吉」であると言っています。大阪府交野市に同名の神社があり、交野は天の磐船に乗って現れた饒速日命を祀り、地域ではそれと絡めて海の神として「住吉の神」を古くから祀っています。

ここで、「籠神社」の祭神の一柱とされる「海神」と、海の神である「住吉の神」とが繋がります。また、「元伊勢外宮」の鎮座する集落には「天田内」、山の名前は「舟岡山」。交野の事例と同様に「舟」との関係が濃厚に見え、『大江ふるさと学』ではこの「天田神社」が古代のこの地の守護神であった可能性を示唆しています。

# 我が鬼伝説

全国の鬼伝説好きが、自分の好きな伝説について熱く語る連載。第五回は白津さんが、力作をお寄せくださいました。

## 思ひ出るは彼の地、誰そ彼

白津 (福岡県そこにいるだけのなにか)

童子とつく存在は山神と同義の解釈をすることもあるようです。酒頼童子はどうだったのでしょうか。一説には伝教大師に追われ、大江に逃げ延びた神の一種との逸話もあります。浪漫ですね。いろんな逸話が残る彼ですが、もしも悪鬼外道ではなかったとしたら、もしも高潔な矜持を持った、名もなき誰かの英雄だったとしたら。対峙した頼光一行と違う形で出会っていたとしたら。その可能性を夢見て、今日も元気に筆をとります。



浮かれ鬼、浮かれ酒

### 「鬼の絵詞」編集拠点である

福知山 雲原  
鬼そば屋とは  
時は安政のころ……  
江戸時代から続く  
峠のふんこのそば屋  
「鬼そば」の名は、ここ  
雲原から始まりました

### 鬼退治の時代に そばはなかった？！

じゃあなぜ「鬼そば」と呼ばれているのか  
その答えは、  
鬼そば発祥の地、  
雲原の鬼そば屋へ☆



福知山 雲原  
おに 鬼そば屋 姫

国道176号線沿い  
「雲原(くもはら)」という集落です  
定休 火・水曜日  
十一時から十五時ごろまで

京都府福知山市雲原二二四八二  
〇七七三三三〇〇一六  
Mail onisoba.nanahime@gmail.com  
www.onisobaya.net

## 第2回 企画連載をふりかえる

今回は、鬼の絵詞の連載について、三人それぞれの思いを語ります。

## わたしたち、おにへんたい！

鬼の絵詞編集隊  
略しておにへんたいの座談会、  
連載します☆ まとめ・飛矢文

2月の講演会を終えた後の感想からです。

飛矢文(姫): (海熊と山内が)うまく行きましたよね、あつたように見える。

山内一輝(山): 編集部の中なかでも、色々な知識を繋ぐのを、意識してやっている。

姫: あのあと山内さんと私で講演会をしたけれど、山内さんもさすが話すの慣れてますね。

山: 仕事で場数は踏んでいるからね。講師で社会を教えていたけど、無味乾燥な説明したって、誰も聞かないでしょ?(笑) 実際に触れる範囲にあるものが、実は過去と繋がっているときの驚き、あれが大切だと思って、歴史を題材にするときは話している。姫とも、公で話す場を持つという話はしていたよね?

姫: そうでした。ひとつの夢でしたよね。紫竹もんじゅ、という3人組の時から。

海熊童子(海): あ、前ルームシェアやってたとかいってましたっけ?

姫: おもしろい(笑) あの頃の遺産みたいなところもありますよね、山内さんとの企画は。海熊さんの講演会には、歴史、地理に強い人が聞き役に必要だと思って、私ではなく山内さんしかいない、と!

姫: これ(収録時点)までにまだ三号しか出ていませんが、とくに目だった企画やお気に入りの記事なんてありましたか?

海: もー全部楽しいんですけど……あえて言うなら四コマと我が鬼ですかね。四コマの下地は実は中学生の頃には考えていたので、で、我が鬼はやっぱり絵詞の目玉ですからね。私、としふみさん、第三号の赤松さん、第四号は化楽さん、色んな人にとって鬼の形、鬼の伝説への思いがそれぞれあって、本当に楽しいです。鬼伝説紀行は、ほんと私の好きなこと好き勝手書かせてもらってるので居心地がいいです。

姫: 私も自分が書いた我が鬼はもちろんですが、全体の格調高さを支えるのは鬼伝説紀行なので、大切にしております。

山: 四コマは、取っつきがいいのもある。

海: 季武と保昌のキャラクターデザインめっちゃ好きです。姫さんありがとうございます!

姫: みなさん、気合い入れて原稿出してくださいますから。四コマ、クラウドナインの連載がちょうど終わってしまって、さみしい所でした。(『このあたりのしんぶん』でエッセイマンガ『クラウドナイン』を連載していた)。作画に限度はありますが、手塚治虫さん時代にならって、スクリーントーンを使わない作画にしております。ハッキリしてて四コマ向きです。今ときはパソコンで描くんですけど、新聞ではほかの記事に手描き感が少なかったのが、よかったですね。

海: あたたかみがある絵でとてもイイです。可愛い。

海: 山内さんの記事(不定期連載「鬼の『ゆかり』を訪ねて」等)もありがたいです。私は酒呑童子は強いけど他の鬼の伝説は弱いので、取材行っていただいて見せていただく記事はとても勉強になります

山: ありがとうございます。

姫: 山内さんの私の思いつきで無理やりお願いしましたが、サッと上がってきて、ちょうど雰囲気も変わって良かったです。

【次回に続く】平成30(2018)年4月25日収録

海熊童子  
うみくまごうこ Umikumagoji, Writer  
……酒呑童子伝説好き  
監修・連載担当  
東京出身。京都府舞鶴市在住。Webサイト「月下庵」(http://gekkan.web.fc2.com/)「で古典文学『前太平記』の現代語訳を公開中。中学生時に酒呑童子伝説に出会い、大学の卒業論文でも酒呑童子をテーマに扱う。その過程で福知山にフィールドワークで訪れ、紆余曲折あり舞鶴市へ移住。好きなものは『前太平記』と酒呑童子伝説と京都府北部と猫と米。

山内一輝  
やまうちかずね Kazuhiro YAMAUCHI, Writer/Editor  
……フリーライター  
校正・構成担当。  
1979年岐阜県生まれ。京都伏見在住。ライターとして活動中。2002年京都大学文学部卒業。塾講師を1年勤めた後、ドイツへ渡航。帰国後に大学生協で下宿・旅行を担当する。「伝承」と「地方の魅力」をキーに発信中。  
問い合わせ: 原稿/講演の依頼は、kwlhfinder@gmail.comまで。情報はフェイスブック(山内一輝 / Kazuhiro Yamachi)で発信。

ななめとこしなみ Toz, Tame, Toshikuni, Designer  
ななめ飛矢文  
……雲原鬼そば屋  
編集・作画・印刷等担当。  
創作集団珠彩。  
埼玉生まれ東京育ち、福知山在住。あだ名は「姫」で、江戸時代から続く峠の茶屋「鬼そば屋」の料理長。家政学やデザインなど専門範囲が広いなか、今はその知識や経験をそば屋に注いでいる。大学院生時代の研究で丹波丹後に出入りしていたのが移住のきっかけ。創作集団珠彩(たまご)として活動。

みなさまのご意見募集中!  
『鬼の絵詞』編集部や創作集団珠彩では、ご意見、ご感想をお待ちしております。「こんな企画が欲しい」「これを知りたい」などなど、どうぞお気軽にご連絡ください。電子メールは oninoekotoba@gmail.com 電話は雲原鬼そば屋 0773(36)0016 ファックスも鬼そば屋で 0773(36)9006 手紙も鬼そば屋なな姫宛にて、〒620-0221 京都府福知山市雲原1248

海熊童子が運営する Webサイト「月下庵」 http://gekkan.web.fc2.com/ ↓

